

# 房総の文化財

— 第 4 号 —

平成 6 年 1 月 1 日

財団法人 千葉県文化財センター

千葉県四街道市鹿渡809-2

TEL 043-422-8811(代)

FAX 043-422-8850



## 2000年前の大都会 草刈遺跡へようこそ

平成5年12月11日(土)市原市草刈遺跡で「草刈に『弥生』がやってきた一僕たちがお米をつくりはじめたころー」という弥生時代をテーマにした遺跡発表会を開催しました。

遺跡のなかの住居跡の一つには柱と出入口のはしごを復原し、炉では火をたき、出土した土器や木の実を床に展示しました。そのほかにムラの周囲をめぐる環濠や、かなたに東京湾を望むことができた弥生時代の景観の想像図などの見学ポイントを設けて、それぞ

れに説明員をおいて、見学者にたいしてご案内をいたしました。またいつもは調査補助員の控え室になっているプレハブが臨時の展示室になり、この遺跡で発見された銅鐸や焼けた米つぶなどの貴重な資料が展示され、見学者の注目をひいていました。

午後は雷雨にみまわれましたが、学校が休みの第2土曜日ということもあり児童・生徒をはじめお年寄りの方々まで参加者は400人をこえたいへん盛況でした。(花島)



## 新たな年を迎えて



新年明けましておめでとうございます。新しい希望の年、平成6年を迎えまして皆様方の平安とご多幸を心からお祈り申し上げます。

さて、財団法人千葉県文化財センターでは、昨平成5年4月から創立以来の組織の大改編を行い、新たな出発をいたしました。昨年はこの新体制のもと、開発事業等に伴う調査、あるいは研究・教育普及活動など役員と職員が一丸となって業務に邁進し、計画どおりに事業を推進することができました。

### 遺跡説明会でのひとこま

できたよ！できた？ —未来にのこすおゆみ野の遺跡—

平成5年8月28日(土)千葉市緑区おゆみ野ニュータウン内に残る有吉北貝塚など3か所の縄文時代の貝塚を歩いてみよう、という見学会を行いました。この地になぜ貝塚がこんなにあるのかを説明し、遺跡を未来に残すことの大切さを知っていただきました。

また、貝塚にちなみ、貝のプレスレット作りなども体験していただきました。(田形)

袖ヶ浦市山谷遺跡 —中世街道と市の跡—



財団法人 千葉県文化財センター  
理事長 奥山 浩

とはいえ、ひとたび社会の動向に思いをいたすとき、内外の諸情勢はますます厳しく、緊張の度を深めており、経済情勢と強く関わって運営されている当文化財センターとしても決してこの荒波から超然としていることは許されません。心を新たに一層引き締めて財団の運営にあたる所存でございます。

本年11月1日には当文化財センターは創立満20周年を迎えます。この節目の年にあたり、来しかたへの反省を踏まえ、来たるべき21世紀への当文化財センターの展望を確固としたものとすべく、本年も組織をあげて積極的に取り組んでまいりたいと思います。なお一層のご支援を心からお願い申し上げます。



平成5年10月23日(土)に山谷遺跡の見学会は、250人以上の参加をえて盛大に開催されました。

この遺跡は小字の地名を「鎌倉街道」といいます。まさに地名どおりに鎌倉時代にまでさかのぼる街道と市場の跡が、県内では初めていっしょに発見されました。考古学が、大昔ばかりを研究しているわけではないことを知っていただけたことと思います。(柴田)

## 出土遺物公開展



### —— 知っていますか？もうひとつの千葉ニュータウン ——

千葉ニュータウンの発掘調査は昭和45年から始まり、いままでに調査された遺跡は70か所以上をかぞえます。この間、住宅開発が進み、現在では高層ビルの立ち並ぶ近代的な景観をみせています。

こうしたなかで、地元のみなさんをはじめ多くの人々に、千葉ニュータウンのむかしを理解していただくために出土遺物展「一知っていますか？もうひとつの千葉ニュータウン」を企画しました。

この展覧会は、印西町教育委員会に後援を

いただき、印西町中央駅前センターの会議室を会場に昨年11月13日(土)から11月21日(日)まで開催いたしました。先土器時代から近世まで、各時代の出土資料を中心に解説パネルや写真を用いて展示しました。とくに大木台2号墳の発掘調査を撮影したビデオは、埴輪の発掘されていくようすがよくわかり好評でした。

連日100人をこえる見学者が訪れ、多くの人々にあらためて郷土の歴史に愛着を感じていただけたものと思います。(岡田)



## 発掘調査速報

### 市原市中潤ヶ広遺跡

市原市中潤戸にある遺跡で、14万㎡(マリンスタージウム5個分の広さ)の発掘調査を行っています。ここからは、弥生時代中期から後期にかけての竪穴住居跡が多く発見されました。そのほかに方形周溝墓(溝で四辺を区画したお墓)や縄文時代・古墳時代前期の竪穴住居跡、古墳や奈良時代のお墓などいろいろなものがあります。

今回の調査で特筆すべきことが二つあります。一つは弥生時代後期の住居のなかから石剣がみつかったことです。千葉県内では遺構から出てきたのは初めてです。石剣は途中で折れていて、切っ先はなくなっていますが、刃の部分は非常に薄く、いまでも切れそうな感じです。

もう一つは弥生時代の方形周溝墓に塚のよ

### 山武町小川崎台古墳群

小川崎台古墳群は、九十九里浜に近い山武町にあり、前方後円墳3基と円墳4基からなっています。高速道路がつくられるため、このうちの3基を発掘して、古墳の形やどんなものが埋められているかを調査することになりました。

そのなかの一つは、長さが約30mの前方後円墳で、6世紀にさかのぼる埴輪が発見されました。埴輪には、筒形のもの(円筒埴輪)や円筒の上の部分がおおきく開いた形のもの(朝顔形埴輪)、それに鳥や馬の形をしたものなどもあります。

写真の埴輪は首飾りをした人物で、調査が進むにしたがい顔の部分がみつかるかもしれません。

この古墳群の北側、境川をはさんで反対側

うな土盛りがみつかったことです。土盛りはわずかに20cmしか残っていませんが、関東ローム層(赤土)や黒土が盛ってありました。

人が埋葬されていた四角い掘り込みもみつかり、そこにも赤土が敷き詰められています。

土盛りの発見された例は県内でも少なく、貴重な発見といえましょう。(小林)



の台地の上には千葉県のなかでも古墳の数が多いことで有名な麻生新田古墳があります。また、近くの島戸境1号墳からは、葬られた人の地位の高さを示す銅の鏡が4枚も発見されています。

小川崎台古墳群の調査によって、今後どのようなものが出てくるか楽しみです。(永沼)



## 古墳特集 古墳のかたち

あなたは古墳ってなんだか知ってますか? ニュースにもときどき登場しますね。どこそこの古墳から何々が出てきた、といった話を耳にしたことがあるでしょう。

古墳とは3世紀から7世紀にかけて、土を盛り上げてつくったそのころの権力者のお墓のことで、あとからお話する横穴などを含める場合もあります。

今回は、その古墳の代表的なかたちをご紹介します。普通、古墳は上から見たかたちでわけられます。上からみて円形のを円墳、四角形のを方墳とよんでいます。

では、前方後円墳とはいったいどのようなかたちをしたものなのでしょうか。おなじように上から見ると、前のほうが四角形や台形で、後ろが円形のかたちをした古墳というこ

とになります。

えっ、古墳に前や後ろがあるのかって? じつは、この呼び方は古く、江戸時代の学者が考えたもので、下の絵のような古墳のかたちを頭に描いて名づけたものです。

千葉市の人形塚古墳では、地面に描いた前方



後円形の設計図の痕跡が発見されています。これに似たものに後円部にあたるところが四角形になった前方後方墳もあります。

ほかにも、横穴という、山の斜面に穴を掘って遺体を納める場所をつくったお墓も県内にたくさんあります。(永沼)

## 発掘された古墳



空からみた前方後円墳と円墳(千葉 人形塚古墳)



直径30mの円墳(千葉 石神2号墳)



空からみた前方後方墳と方墳(佐倉 飯合作遺跡)



山の中腹に掘られた横穴(茂原 山崎横穴群)



# 埋蔵文化財アラカルト

## シリーズ 住まいの移り変わり

### 第4回 古墳時代

古墳時代の人々の住まいは、弥生時代と同じように、地面を掘りくぼめた竪穴住居です。

竪穴のかたちは、古墳時代の初めのころには弥生時代によくみられた小判形からしだいに变化し、隅が丸みをおびた四角形、中ごろには四隅が直角になります。後半の時期には7mから8mの大きなものが多くみられます。

竪穴住居のなかには4つの柱穴とはしごを固定した穴が見つかります。はしごを降りると柱だけが立つワンルームに入ったようです。

部屋のなかでは、古墳時代の中ごろまで真ん中より少し奥に、床を簡単に掘りくぼめただけの「炉」をつくり、煮炊きをしていました。それが後半になると奥の壁ぎわに「かまど」がつくられるようになり、煮炊きはおっぱらそこで行うようになります。かまどのまわりから土器がたくさんみつかれるのもそのためです。柱と壁の間は、わらやむしろを敷いて、くつろぐための場所になっていたのかもしれない。(太田)



古墳時代初め(左)と中ごろ(右)の住居  
丸みをおびたものから四角いかたちに変化している。赤く焼けた炉がみられる。



古墳時代後半の住居とかまど(上)

入り口の反対側にかまどあり、かまどの上やまわりにかめなどがおかれている。

まちがいさがし (絵 大鷹)



前回のまちがいさがしの解答



右上の建物がまちがいです。弥生時代の人々は、中央にある建物に住んでいました。

右上のものは鎌倉時代に武器などを収めた倉庫です。(横山)

## 犬の考古学

今年は戌…イヌ年です。そこで犬をたずねて、時間と空間をこえた考古学の旅に出てみることにしましょう。

ここは、大阪府茨木市の昼神車塚、今から1450年ほど昔、古墳時代後期の古墳です。この

古墳には尻尾をくると巻き首輪をつけた犬の埴輪が立てられています。そして、犬の埴輪と並んで猪の埴輪もみえます。犬の埴輪は全国各地の古墳から出土しており、房総風土記の丘の竜角寺古墳群第101号墳でも犬と猪の埴輪が発見されています。



犬の埴輪(昼神車塚古墳)

旅をいそぎます。四国は香川県です。昔この香川県で発見されたと伝えられる、今から約2000年以上前の弥生時代につくられた銅



銅鐸絵画(伝香川県出土)

鐸です。この銅鐸には弓矢をもつ人物と猪、その猪を取り囲む5匹の犬の絵が鋳出されています。犬はみんなぴんと尻尾を立て猪を追いついています。吠えかかる声が聞こえてくるようなみごとなものです。

旅は最後は千葉県で飾りましょう。小見川町の白井大宮台貝塚です。当文化財センターの調査により、縄文時代の中期、今から約4500年ぐらい前の穴の



犬の全身骨格(大宮台貝塚)

中から一体の人骨と並んで一緒に埋葬されたい犬の全身骨格が発見されました。ここからは子どもの猪の骨格も発見されています。これも埋葬されたもののようです。今までの旅で見てきた犬と猪の組み合わせがここでもみられます。そういえば犬と猪は、十二支でも子丑寅……戌亥、ネ・ウシ・トラ……イヌ・イノシシと一番最後に並んでいましたね。不思議なご縁です。(高木)

## Q & A

古墳時代の食べ物にはどんなものがあつたのですか？

弥生時代とおなじように、お米を主食にしていたようで、甗(土製のせいろ)で蒸して食べるようになりました。私たちがお祝いのときなどにご馳走になる赤飯やチマキといったものは、そのころのなごりでしょうか。そのほかに、アワ・ヒエや海の幸、山の幸なども食事をかざったことでしょう。今でいう「健康食品」に通じるところがありますね。

土器の名前で土師器とか須恵器とかいうのがありますが、いったいなんのことですか？

どちらも古墳時代から平安時代にかけてつくられた土器のことです。土師器は、弥生土器の伝統をついだ素焼きのもので、火に強いので、煮炊きに適しています。

須恵器は、5世紀ごろ朝鮮半島から作り方が伝えられました。これは立派な窯を使ってつくられたかたい焼き物で、水がもれにくいことが特徴といえるでしょう。(白鳥)



## 収蔵遺物コーナー

今回ご紹介する遺物は、古墳時代の初めころの住居跡から出土したものです。

上の写真は、白井町<sup>いっぽんぎくろみなみ</sup>一本桜南遺跡で発見された土器の代表的なものです。左端の土器は物を蓄えるための壺で、表面を赤くぬったり磨いたりしてあり、ほかのものくらべてみるといいえな作り方をしています。壺の中には砂鉄がつまっていたようですが、このような例はたいへんめずらしいことです。

奥のほうに見える2点は煮炊きに使われた甕<sup>かめ</sup>で、底に台がつくもの（右上）とつかないもの（中央）の2種類あるのが、この時代の特徴といえます。

壺の前どなりにあるのが、小形の壺などを載せる台の役目をする器台<sup>きだい</sup>とよばれるものです。上のお皿になった底の部分に穴が開いていて、下の脚の表面にも3個ほどの穴があるのが特徴です。

その右にあるおなじようなかたちをした3点も、器台とおなじ使い方をしますが、三つを一組にして、その真ん中の空間に大形の土器を載せるように工夫されたもののようです。異形器台<sup>いぎようきだい</sup>というむずかしい名前によばれています。

下の写真は、印西町<sup>わかいしんでん</sup>向新田遺跡から発見された石製模造品です。これは加工しやすい滑



一本桜南遺跡の土器（古墳時代前期）



向新田遺跡の石製模造品（古墳時代前期）

石とよばれる石を、さまざまなかたちにまねて細工した装飾品のことです。左側は琴の弦を支える琴柱<sup>ことばしら</sup>のかたちをまねたもので、みごとな細工がなされています。右側の2点は勾玉<sup>まがたま</sup>という飾りをまねてつくったものですが、実際に使ったのかもしれませんが。（及川）

### お知らせ

当文化財センターでは、発掘調査をお手伝いいただける調査補助員を募集しています。ご希望の方は当文化財センターまでお問い合わせください。

また、この「房総の文化財」をご覧になってまちがいがしの解答や、Q & Aにご質問がありましたら、当文化財センター事業課までお寄せください。

### 編集後記

みなさん、あけましておめでとうございます。第4号では、あらたな気分で当文化財センター理事長のあいさつからスタートしました。号をかさねて今回は古墳時代のくらしを中心におおくりします。

また今年の干支にちなんで「いぬ」のことも取りあげて、みなさんに親しまれるようがんばってまいります。（谷）